

私たちはソーシャルクリニックの「看護師」

地域協働専攻 国際協働グループ3年 高山 結依 菜
地域政策グループ3年 杉之原 萌衣

1. ソーシャルクリニック巡回型サテライト・オフィスに参加して

この度は、ソーシャルクリニック(以下SC)巡回型サテライト・オフィスに関わることができ、国際地域学科地域協働専攻に所属する学生として、地域と大学の関わり方を深く考えるきっかけとなりました。

私たち学生は、司会進行に加え、2020年夏、森町で体験した「地域づくり支援実習」事例報告を担当しました。この実習は、学生が様々な課題をかかえる地域に一定期間滞在して就業体験を行うことにより、地域振興に必要な実践的能力を育成するというものです。SCが「地域課題の診療所」であるならば、私たち参加学生はいわば「診療所の助手あるいは看護師」といった立場になるかと思えます。また各町での巡回型サテライト・オフィス(以下巡回サテライト)終了後は意見交換の記録作成も担いました。医療カルテとは程遠いものですが、まるで「地域のカルテ」を作っているような気持ちでした。意見交換会に盛り上がりが見られた地域も、控えめに見られた地域も、どちらからも「まち」としての大事な個性を感じました。学生である私たちにも積極的に意見を求めてくださる地域の皆さんの姿勢に、あたたかさを感じました。この場を借りて感謝申し上げます。

地域によっては高校がない、十分な学校教育が出来ているのかという不安を抱えているという地域もありました。今回同行していただいた北海道教育大学附属函館中学校の取り組みである離れた地域にある学校同士を繋ぐオン

ライン授業は、コロナ禍においては、地域の学校の非常によい助けになると思いますので大きく期待しています。(杉之原)

2. 対面での開催とオンラインでの開催

9月までに開催した渡島総合振興局、上ノ国町、松前町については対面形式で開催されましたが、11月以降に開催を予定していた森町、奥尻町、鹿部町はZoomを利用したオンラインでの開催、檜山振興局については書面会議方式での開催となりました。

対面で実施した地域においては、マスクはしていましたが相手の表情や場の雰囲気を感じながら意見交換を進めていきました。オンライン形式では、森町との開催時には武蔵野美術大学のご参加も得られたり、奥尻町との開催時には天候に左右されることもなく開催ができたなど、心理的距離が近く感じられました。ミュートを使う関係でジェスチャーを多く使うこともあり、対面でなければ相手の反応がわかりにくい会合のイメージが変わったような気がします。むしろ大きな反応がいただけたように感じました。しかし、接続がうまくいかなかったり、多少回線が不安定になり相手方の声が聞きにくくなったり、資料郵送の対応などオンラインゆえの難しさもありました。(杉之原)

3. 特に印象に残った意見交換

参加させて頂いた巡回サテライトの中で特に印象に残ったのは、奥尻町と実施した情報交

換です。奥尻町は前述の通りオンラインでの実施でしたが、唯一高校生も交えた意見交換となりました。

奥尻高校では「町おこしワークショップ」というものを実施しているそうで、今回は「観光グループ」に所属する生徒から、活動の紹介をして頂きました。奥尻町の新しい景勝地をつくり、観光客のさらなる誘致を目指しているとのことでした。「人口減少・夏以外の観光名所が少ない・多額の資金は見込めない」などの奥尻町の課題を現実的に考えた上で、実践に移せるほどに詳細に企画が練られていました。さらには大学とこんな協働が出来ないだろうかという提案までして頂き、奥尻高校の生徒の町への想いや強い熱意を感じました。また同時に、高校生がこんなにも頑張っているのだから、私たち大学生はもっと地域のために頑張らなくてはいけないとも感じ、よい刺激になりました。役場の方からは、役場と高校の連携についての話もあがり、かなり活発な意見交換を行うことができたのが印象的です。地域にとって、若者との連携はなくてはならないものだと感じた瞬間でした。(高山)

4. 今後の展望

今後の巡回型サテライト・オフィスの展望として私たちが考えることを2つ挙げたいと思います。

一つ目はオンライン形式での実施に挑戦してみたからこそわかった、地域と大学との新しい連携の可能性についてです。この度は新型コロナウイルス感染症の影響でやむを得ず3地域との意見交換は、オンライン形式となりました。もちろん回線の問題などのデメリットもありましたが、伝えようとする気持ちが大きく

なったり、手軽に行えたりなどの、挑戦してみてもわかったオンライン形式だからこそそのメリットもありました。これからはオンラインと対面での実施をうまく使い分けながら大学と地域をつなげていければ、地域と大学が協力して行う活動の幅も広がるのではないかと思います。

二つ目は役場以外の場所からの参加者についてです。巡回サテライトは市役所や役場など行政関係者との意見交換が中心となりがちですが、森町での武蔵野美術大学の方々と交えた際や、奥尻町での高校生を交えた際など、役場ではない場所からの参加者がいた時に、意見交換はより充実したものになった印象を受けました。様々な立場の人がいるからこそ見えてくる地域の課題や大学との協力の形もあるのではないのでしょうか。

私たちは、今年度の経験を後輩へと受け継ぎ、来年度はさらに充実した巡回サテライトにしたいと思っています。来年度もどうぞよろしくお願い致します。(高山)